

# 令和4年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第6号（9月）

令和4年8月31日  
山形県病害虫防除所

## [概要]

園芸作物：**ももせん孔細菌病の感染量はやや多い予想です。**次年度の伝染源密度の低減を図るため、収穫後の防除を徹底してください。

**きゅうりの炭そ病の発生量はやや多い予想です。**降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないよう雨の合間を見て防除を行ってください。

**シロイチモジヨトウの発生量は多く、ハスモンヨトウはやや多い予想です。**圃場をよく見回り早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を徹底してください。

次回の発表は9月28日の予定です。

## 予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
だ い ず	マメシンクイガ	—
り ん ご	黒星病 斑点落葉病 褐斑病 輪紋病・炭そ病	— — — —
ぶ ど う	べと病・褐斑病	—
も も	<b>せん孔細菌病</b>	<b>やや多い*</b>
西 洋 な し	輪紋病	—
日 本 な し	黒星病	—
果樹共通害虫	果樹カメムシ類（り・も・な・か） ナシヒメシンクイ（り・も・西） モモシンクイガ（り・も・西）	平 年 並 平 年 並 —
夏秋きゅうり	<b>炭そ病</b>	<b>やや多い</b>
秋 冬 ね ぎ	褐斑病・べと病 葉枯病 さび病 ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	— 平 年 並 — 平 年 並 —
野菜共通害虫	<b>シロイチモジヨトウ</b>	<b>多 い</b>
〃	ヨトウガ（ね、え）	—
畑作物・園芸作物共通害虫	オオタバコガ（夏・ね・え） <b>ハスモンヨトウ（豆・か・ね・え）</b>	— <b>やや多い</b>

（ ）内 豆：大豆、り：りんご、も：もも、な：なし（西洋なし、日本なし）、西：西洋なし、か：かき、夏：夏秋きゅうり、え：えだまめ、ね：秋冬ねぎ

\* 感染量

山形県病害虫防除所	本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	<a href="https://agrin.jp/theme/byogaichubojosho/index.html">https://agrin.jp/theme/byogaichubojosho/index.html</a>		
農作物有害動植物発生予察情報	<a href="https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html">https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html</a>		

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号      (+)：発生量を多くする要因      (-)：発生量を少なくする要因

## I 普通作物

### 1. だいず

#### (1) マメシクタイガ

薬剤散布は8月下旬及び9月上旬（前回散布の10日後）の2回が基本であり、9月上旬にも必ず実施する。なお、莢に薬剤が付着しないと十分な防除効果が得られないので、ていねいに散布する。

## II 園芸作物

### 1. りんご

#### (1) 黒星病

8月後半の巡回調査の結果、発生量は平年並であるが、一部、8月前半の調査時よりも発病葉が急増している園も見られる。今後の感染拡大を防止するため、以下の対策を実施する。

ア. 伝染源密度低減のため、葉摘み時に発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

イ. 薬剤散布予定日に降雨が予想される場合には、降雨前に防除を行うとともに、9月中も散布間隔があきすぎないようにする。

ウ. 薬剤散布に当たっては、不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、十分な薬液量（500L以上/10a）でていねいに散布する。また、スピードスプレーヤにより防除する場合は、散布速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。

#### (2) 斑点落葉病

8月後半の巡回調査の結果、発生量は平年並であるが、発生が多い園では、9月上旬～中旬に有機銅を含む薬剤を散布する。

#### (3) 褐斑病

8月後半の巡回調査の結果、発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。なお、不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高める。

#### (4) 輪紋病・炭そ病

8月後半の巡回調査の結果、発生量は平年並であるが、平年より早く発病果が確認されている。炭そ病の発病果は二次伝染源となるので、園内をこまめに観察し早期発見に努め、見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、例年輪紋病や炭そ病が見られる園では、9月上旬～中旬に薬剤散布を行う。

### 2. ぶどう

#### (1) ベと病・褐斑病

8月後半の巡回調査の結果、べと病の発生量はやや多く、褐斑病の発生量は平年並である。デラウェアでは9月上・中旬に防除を行い、大粒種では9月上旬に棚上面から防除を行うとともに、収穫後遅れないように防除を行う。

### 3. もも

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) <b>せん孔細菌病</b>	<b>やや多い</b>

#### 1) 予報の根拠

ア. 8月後半の巡回調査の結果、発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。(+)

#### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 次年度の伝染源密度の低減を図るため、収穫後は速やかに無機銅剤を2週間おきに2～3回散布する。

イ. 台風等により早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、落葉後の降雨前に薬剤防除を徹底する。

### 4. 西洋なし

#### (1) 輪紋病

本病は9月も感染するので、9月上旬及び中・下旬にも防除を行う。

### 5. 日本なし

#### (1) 黒星病

8月30日現在の発生量は平年並である。園内の見回りを徹底し、発病果、発病葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

## 6. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) 果樹カメムシ類 (クサギカメムシ・チャバネカメムシ)	りんご・もも・なし ・かき	平年並

### 1) 予報の根拠

ア. 8月30日現在の果樹カメムシ類の発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 果樹カメムシ類は、気温や湿度の高い日に飛来や吸汁加害が多くなりやすい傾向があるため、園内を十分に見回り、樹上の寄生や被害果の発生に注意する。

イ. 園内で成幼虫の寄生や被害果が確認される場合は、速やかに薬剤散布を行う。

ウ. 薬剤の選定に当たっては「山形県病虫害防除基準」を参照し、果樹カメムシ類に効果のある剤で防除を実施する。なお、各樹種の収穫開始時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ナシヒメシンクイ	りんご・もも ・西洋なし	平年並

### 1) 予報の根拠

ア. 8月30日現在の発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

### 2) 防除上注意すべき事項

ア. もも、西洋なしは特に被害を受けやすいので、園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。

イ. 被害が見られる園では、薬剤の選定に留意して9月上旬の防除を徹底する。なお、収穫前の本種の活動時間帯（18～22時頃）の気温が15℃以上の日が続くような場合には、必ず9月中・下旬にも防除を行う。

ウ. 薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

### (3) モモシンクイガ（りんご・もも・西洋なし）

8月30日現在の発生量は平年並である。園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

## 7. 夏秋きゅうり

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 炭そ病	やや多い

### 1) 予報の根拠

ア. 8月30日現在の発生量はやや多い。(＋)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。(＋)

### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 発病葉は見つけ次第取り除き、圃場外に搬出し、適切に処分する。

イ. 薬剤防除は予防散布を基本とし、降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。

ウ. 薬液が葉裏まで十分付着するようていねいに散布する。

エ. 草勢が低下しているとまん延しやすいので、適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

### (2) 褐斑病・べと病

8月30日現在の発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が増加する恐れがあるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。なお、発病葉は取り除き圃場外に搬出し、適切に処分する。また、草勢が低下しているとまん延しやすいので、適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

## 8. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病	平年並

### 1) 予報の根拠

ア. 8月30日現在の発生量はやや少ない。(－)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。(＋)

### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

イ. 降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

### (2) さび病

8月30日現在の発生量は平年並である。肥料切れによる草勢低下や多肥栽培で発生が多くなるので、適切な肥培管理を行う。また、降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) ネギアザミウマ	平年並

1) 予報の根拠

ア. 8月30日現在の発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 雑草での増殖及び圃場への飛来を防止するため、圃場内及び周辺の除草を徹底する。

イ. 圃場をよく見回り、密度が高くなる前に防除を徹底する。また、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

ウ. 薬剤抵抗性出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループを輪用散布する。

(4) ネギハモグリバエ

8月30日現在の発生量はやや少ない。発生が多いと葉が白化することがあるので、圃場をよく観察し、被害初期に防除を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(5) シロイチモジヨトウ	多 い

<8月16日付け 発生速報第6号発表>

<8月23日付け 発生速報第7号発表>

1) 予報の根拠

ア. 8月30日現在の発生量は多く、県内各地で被害が見られる。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、これまで被害が見られない圃場や薬剤防除を行った圃場でも被害が急増することがあるので注意する。

イ. 卵塊や、ふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は、取り除き適切に処分する。

ウ. 幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、卵塊確認時や被害初期（葉の先端が透けた時）に薬剤防除を行う。なお、薬液防除を行う場合は、株全体に十分付着するようていねいに散布する。

エ. 他県では合成ピレスロイド剤の効果が低下している事例が確認されているため、薬剤の選定に留意する。また、薬剤防除後にも被害の拡大が見られる場合には、異なる系統の薬剤を散布する。

オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるため、発生動向に注意する。

カ. 本種は広食性でねぎの他、アスパラガス等の野菜、きく、トルコぎきょう等の花き、だいず等の畑作物等、多くの作物を加害するので注意する。

## 9. 野菜共通害虫

### (1) ヨトウガ (秋冬ねぎ、えだまめ)

8月30日現在の発生量はやや少ないが、圃場をよく見回り早期発見に努める。薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に行う。

### (2) オオタバコガ (夏秋きゅうり・秋冬ねぎ・えだまめ)

8月30日現在の発生量は平年並であるが、今後、台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので発生動向に注意するとともに、圃場をよく見回り早期発見に努め、幼虫や被害を確認した場合は速やかに防除を行う。

また、本種は多くの作物を加害するので、周辺の作物も含めよく観察する。なお、被害部位(花蕾、果実、新芽等)や収穫残さは、内部に幼虫が生息している場合があるので適切に処分する。

## 10. 畑作物・園芸作物共通害虫

病虫害名	対象作物名	予報内容
		発生量
(1) ハスモンヨトウ	だいず・かき ・秋冬ねぎ・えだまめ	やや多い

### < 8月16日付け 発生速報第6号発表 >

#### 1) 予報の根拠

ア. 8月5半旬までのフェロモントラップにおける誘殺数は、県予察圃場(山形市)、地区予察圃場(鶴岡市)ともにやや多い。(+)

イ. 8月後半の巡回調査の結果、だいず、かき、秋冬ねぎの一部の圃場では、幼虫による食害が確認されている。(+)

ウ. 向こう1か月の天候は、気温が平年並か高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

#### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、本種は畑作物、果樹、野菜、花き等多くの作物を加害するため、周辺の作物も含めよく観察する。

イ. 卵塊や、ふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は、取り除き適切に処分する。

ウ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に行う。なお、薬液は散布ムラが生じないようにいねいに散布する。

エ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるため、発生動向に注意する。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去10か年の平均）を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
ややおそい	平年値より3～5日おそい
早 い	平年値より6日以上早い
お そ い	平年値より6日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去10年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →		← 平 年 並 →				← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1か月予報（08/27～09/26）		
2022年08月25日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	なし。	
向こう1か月 08/27～09/26	天候	東北日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 08/27～09/02	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 09/03～09/09	気温	2週目は、平年並の確率50%です。
3～4週目 09/10～09/23	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	東北地方	向こう1か月 08/27～09/26	
		1週目 08/27～09/02	
		2週目 09/03～09/09	
		3～4週目 09/10～09/23	
降水量	東北地方	向こう1か月 08/27～09/26	
日照時間	東北地方	向こう1か月 08/27～09/26	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)